



静岡県の幼児教育の質の向上を目指して

# わっ！ぴょん通信

発行・編集 静岡県幼児教育センター TEL054-221-3287 FAX054-221-3558

## 静岡市立蒲原西小学校

### 「スタートカリキュラムから広がるカリキュラム・マネジメント」

4月19日に拡大校内研修会が行われ、1年生の公開授業に市内の幼児教育施設や小学校から多くの先生方が参加しました。

スタートカリキュラムは13年目を迎え、第3ステージ「学びの充実」に向かい園と学校とが相互理解を進めながら継続・追究がされています。弾力的な時間割、合科的関連的な学習の展開を重視したスタートカリキュラムは、全校体制で1年生を支えるものとなり、重点目標「さあ、やろう」に迫る取り組みです。入学式からほんの2週間ですが、1年生の明るく楽しそうな姿に幼小の円滑な接続が感じられました。

#### なかよしタイム 30分間

教室の隣の「なかよしルーム」に、クラスの皆がフロアーに輪になって座り、健康観察、質問タイムが繰り広げられていました。これは、園ではよく目にする光景です。

担任の先生の外に、地域のボランティア「スマイルティーチャー」も子どもたちを温かく見守っています。なかよしタイムは、30分間たっぷり時間をとり、のびのびと活動しやすい空間の中で、安心して一日をスタートできるように工夫されていました。

先生が「○○○○さん」と呼名すると、子どもは元気よく「はい」と返事をし、続けて本日のテーマ「今日の朝ご飯のメニュー」と「好きなキャラクター」、そしてその理由を話します。話に詰まると友達から「なぜですか？」と質問が飛び、答えたり考え込んだり…。考えがまとまらない時は先生が「今、考えているんだよね」と時間を取り、聞いている友達も温かく待ちます。

健康観察の後は、「♪始まるよ 始まるよ♪」の手遊び歌を皆で楽しみ、今日の当番の子どもの自己紹介が始まりました。「何のスポーツですか？」「サッカーです」など、子ども同士でやりとりが続きます。「好きな友達は誰ですか？」「みんなです」の返事には思わず大きな拍手が起きました。新しい友達が増えていくことをみんな嬉し合っている様子がうかがえると共に、幼稚園教育要領の領域「言語」で培ってきたことが生かされていると感じました。

先生による読み聞かせでは、思い思いに好きな場所に移動し、お話を聞きます。先生が読んだ絵本は、次の国語の授業につながる「とんとんとん」です。



#### 国語科「なんていおうかな」30分間

電子黒板に子どもたちが登校して教室に入ろうとする教科書の挿絵が映し出され、自分だったらどんな言い方をするか考え合いました。次の時間の生活科「学校探検」を見据えた授業です。

「おはよう」「おはようございます」「先生、おはようございます」など声があがります。先生の「他にどんなことを言うかな？」の問いかけに「今日もみんな元気だね」「○○ちゃん、おはよう」など、それぞれ考えた言葉を組み合わせ、たくさんの意見が発表されました。

幼児教育では、自分なりの目的をもって主体的に活動に取り組むこと、自分の考えや気持ちを伝え友達とイメージを共有して、試行錯誤しながら工夫して遊びを進めることを大事にしています。蒲原西小学校の1年生の「自分の思いもち友達と関わる姿」や、「授業に積極的に取り組む態度」の中に、幼児教育と小学校教育の学びのつながりを見ることができました。

**生活科 45 分間 1年生「学校探検」 2年生「とっておきの場所を教えてください」**

次は、1年生と2年生と一緒に学校探検に出かけます。

1年生の行きたい所がカードに書いてあり、その場所や約束をペアの2年生と確認して、さあ、出発です。

「失礼します」「図書室だよ」「何の本が好き?」「ここにも本があるよ」一生懸命説明しようとする2年生と、あちこち見てみたい1年生。授業中の教室を一巡りしたり、楽器を使わせてもらったり…。外壁に校章を見つけた1年生に2年生が「あれは校章だよ。学校のマークなの。」と説明します。屋上や特別教室には先生がいて、子どもの安全を見守っています。カードを見返したり写真を撮ったりしながら、目的の場所を目指しました。

思ったことを自分の言葉で伝える1年生の姿に、前時の国語の「なんていおうかな」の学習との学びのつながりを見ることができました。また、2年生の1年生にわかるように伝え方を考え工夫して説明する姿に、スタートカリキュラムを通して上級生も共に学びを積み上げている蒲原西小学校の取組の成果を見ることができました。



入学してからの子どもたちには新たに知ったり覚えたり行動したりしなくてはならないことがたくさんあります。

期待にわくわくしながらも不安を覚えることもあったでしょう。しかし、そんな姿は微塵も感じさせずに、子どもたちは、小学校生活のスタートを切っていました。園で培ってきた力が、小学校での学びに向かう力の基礎となり、積極的に学習に取り組む意欲を支えていることを1年生の姿に見ることができました。さらに、小学校における園での生活様式の取り入れや弾力的な時間割、合科的・関連的な学習の展開など、カリキュラムの工夫も園から小学校への段差を縮めていると思います。

単元構想の下、子ども達とストーリーをつくっていくことを大切にされた教育課程の編成(カリキュラムデザイン)が「主体的な学び」を生み出し、その学びを「各教科の学びにつなげる」「学びで身に付いた力を発揮する場を設定する」という蒲原西小学校のスタートカリキュラムへの取り組みは、確実に子どもの力となり育まれています。

**さわやかさん インタビューコーナー**

Spring プロジェクト インクルーシブ支援員 森下未奈子

私は、大学卒業後、幼保連携型認定こども園に保育教諭として3年間勤務している中で、学生時代から関心のあった特別な配慮を必要とする子どもに対して、今の自分にできることは何なのかを考えるようになり、昨年度よりインクルーシブ支援員として Spring プロジェクトに参加させていただいております。

沼津市内の保育園・幼稚園へ、週に 1 回訪問し、外国につながる子どもや特別な支援を必要とする子どもに、個別の指導を行っています。一人一人の得意や苦手、興味関心に合わせて、学校教育での言葉の基礎となる力や人と関わる力を、遊びを通じて楽しみながら育んでいきます。

また、今後どの保育者でも実施可能な指導方法や教材について検討し、誰もが一定の指導・支援が受けられるように広めていければと考えています。子どもが抱える困り感を早期にくみ取ることで、小学校入学への段差が少しでもなだらかなるよう、個別の支援が行われる環境が整ってほしいと思います。

さらに、幼小接続におけるデータベースの整理が進み、一人一人の子ども達が最大限に自分の力を発揮できるような環境づくりにつながっていくことを期待しています。



HP には、乳幼児教育・保育や幼小の接続期の教育に関する情報をたくさん掲載しています。国や県の通知や指針もありますので、ぜひご覧ください。右の QR コードを読み取るか、下記の URL を入力してください。



静岡県幼児教育センターホームページ「静岡県就学前教育情報発信サイト わっ!」

<https://www.pref.shizuoka.jp/kodomokyoiku/school/kyoiku/1003777/yojikyoku/index.html>